

The Japan Association of Radiological Technologists
ネットワーク・ノウ

Network

Now

2018 No.513

9/1

JART情報
<http://www.jart.jp>

発行所 公益社団法人日本診療放射線技師会
〒105-6131 東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービル31階
TEL. 03-5405-3612 FAX. 03-5405-3613



平成30年度 第1回 地区責任者(47都道府県) ワークショップ報告



平成30年7月28日(土)・29日(日)の2日間にわたり、47都道府県地区責任者ワークショップ(以下、WS)を開催した。台風12号の影響で開催が危ぶまれたが、幸いにも交通機関の乱れや影響は最小限に抑えられ、数人の方々に影響を生じたものの無事に開催することができた。

今回のWSは、本会が抱えているさまざまな課題を各府県の代表者と共有し合い、克服するためさまざまな観点から方策を見いだすことを目的に開催された。

冒頭、過日の西日本豪雨災害により尊い命を亡くされた方々やご遺族に対する哀悼の意を表し、全員で黙とうをささげた。続いて中澤会長より3つの話があった。1つ目は、先の通常国会での働き方改革法案の成立により、診療放射線技師の当直業務が時間外勤務に該当するとの認識の下に活動していくこと。2つ目は、マスコミ報道でも大きく取り上げられている画像診断報告書の未確認問題について、診療放射線技師の読影の補助として積極的な活用を要望していくこと。3つ目は、今回のWSの開催目的でもある本会の諸課題を、さまざまな観点から議論してほしいという話であった。



今回の各府県代表者には、事前のグループ分けとともにテーマ内容に関する資料が配布されており、それぞれの考えや意見を持って集まってこられていたが、面識はあっても話したことはないメンバーがほとんどということもあり、初日は若干の張り詰めた空気感の中でのスタートとなった。

本題であるWSのテーマは、以下の通り。

- 入会促進に向けた方策
- クリニカルリーダーの普及に向けた方策
- 統一講習会受講促進に向けた方策
- 医療被ばく低減施設に向けた方策
- 読影の補助推進に向けた方策
- 実態調査(医療機器故障・業務実態・給与関係)推進に向けた方策
- 診療放射線技師大学教育の実現に向けた方策



開始に当たり、熊代、佐野両副会長からKJ法を用いたWSに関して、アイデアや意見を自由に出し合うブレイクス

トーミング・グルーピング(以下、BS)について、意見の絞り込みや整理をする関連化作業と2次元展開法について、そしてプロダクト図からロジカルに最終の解決策や具体的提案・方策などの結論を導き出すという手法の説明がなされた。

そして各グループに配置されたファシリテーターの下、テーマに沿って1人当たり30以上の発案が促されWSが開始された。続いて議論の途中経過として、一回目は、テーマに対する論点整理やBSによる抽出や関連付けをどう展開したか、二回目は、関連化作業と2次元展開から緊急度と重要度について、各グループの代表者からの報告があり、質問や討論とともに熱気に包まれた雰囲気の中で初日を終えた。

2日目の冒頭、中澤会長から「初日は山頂が見える8合目まで到達した。しかし、山頂を目指し装備は大丈夫か、忘れ物はないかなどの確認作業が重要であり、ここからが登頂を目指す真骨頂である」と、2日目の取り組みに関して登山の醍醐味を形容した話があった。

初日の研修会後の懇親会による交流の効果もあり、各グループでは一体感に包まれた雰囲気の中で改善策の検討や実現具体策、評価の見える化などの最終的なプロダクトに向けた意見をまとめ上げ、WSの7つのテーマごとに最終の発表会と討論が行われた。

発表後、中澤会長から本会に突き付けられた課題に対し、非常に重要な方策案と貴重なご意見を頂戴したことへの感謝



の言葉があり、本会の取り組みのポイントとして広報が足りないことを真摯に受け止め丁寧に対応すること、データ収集と理論武装により法改正を目指すこと、本会と47都道府県とが一体になって取り組んでいく道標が得られたとの講評があり、47都道府県地区責任者ワークショップは成功裏に終了した。

後日、各グループから詳細に方策案がNNもしくは本会会誌に掲載予定である。

(文責：高嶋敏光)



義援金募集について (平成30年7月豪雨)

INFORMATION

このたびの西日本を中心とした記録的な豪雨により、犠牲となった方々にお悔やみ申し上げますとともに、被害に遭われた全ての皆さまに心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興を願い、本会では義援金を募集しております。皆さまのご協力をお願い申し上げます。

- 義援金取扱口座 ※金額はいくらからでも結構です
- 銀行名：りそな銀行 芝支店 普通口座 1569223
- 口座名：公益社団法人日本診療放射線技師会 支援金受付
- 締切日：9月30日(日)

平成30年度 新任会長会議 開催される

平成30年7月28日（土）、本会事務所会議室で平成30年度新任会長会議が開催された。本会から中澤会長、佐野副会長、熊代副会長、小田理事、中村理事、富田理事、江田理事の7人が出席した。各府県からは、岩手県診療放射線技師会 村上会長、茨城県診療放射線技師会 川又会長、長野県診療放射線技師会 大塚会長、岐阜県診療放射線技師会 小野木会長、富山県診療放射線技師会 石浦会長、福井県診療放射線技師会 山崎会長（代理出席 村中副会長）、三重県診療放射線技師会 界外会長、滋賀県診療放射線技師会 古山会長、大阪府診療放射線技師会 田中会長、山口県診療放射線技師会 三輪会長、香川県診療放射線技師会 門田会長、長崎県診療放射線技師会 福田会長の以上12人の方々が出席した。なお、出席予定であった北海道診療放射線技師会の富田会長は、台風12号の影響で欠席となった。

初めに、中澤会長より3つの話があった。1つ目は、新会長として地域住民への健康増進に役立つよう事業活動していただきたいこと。2つ目は、JARTでは認定資格の数が全体的に少ないため、認定施設や認定技師を増やしていただきたいこと（近年、医療施設などに放射線管理の責任者などが設置される方向で進められており、今後、本会が事業展開をしている医療被ばく低減施設や放射線管理士・放射線機器管理士などが非常に重要な位置付けになると予測されるため）。3つ目は、診療放射線技師業務の楽しさや素晴らしさを多く啓発して、高い志と豊かな感性を備える診療放射線技師を増やし、入会促進に向けて事業を行っていただきたいとのことであった。

続いて各新会長より現在の会員数、統一講習会の受講率、



12人の各府県会長と共に

各技師会で抱えている課題などを含めた自己紹介が行われ、本会議題へと進んだ。

主な議題は「JARTの事業について」「技師法改正（案）について」「地域における養成校設立と業務拡大に伴う統一講習会について」「都道府県との業務委託契約について」「JART組織と表彰規程について」および「新任会長からの要望について」であった。「JARTの事業について」では、中澤会長が日本診療放射線技師会の10の政策（養成教育の四年制大学の必要性、医学物理士の在り方、医療安全のための適切な管理体制の構築など）の説明をされた。「技師法改正（案）について」では、小冊子を全国会長会議などで配布し、会員や立法府に向けて精力的に活動することが述べられた。「養成校設立と統一講習会について」では、佐野副会長が専門学校の設置認可について説明され、事例を基に診療放射線技師の大学養成教育の必要性を述べられた。その際、中澤会長より大学養成教育について本会の方針を各道府県の行政府にご理解いただけるよう、協力要請があった。また中村理事より統一講習会の現在の進捗状況しんちよくについての報告があった。「都道府県との業務委託契約について」では、小田理事が業務委託・学術業務委託および経理処理について説明された。「JART組織と表彰規程について」では、江田理事が本会の組織の説明をされ、JARTへの要望や意見などについては、必ず地域理事を介して進めることが要請された。

最後に、中澤会長から技師法改正の大きな武器になる業務実態調査の重要性と調査への協力要請がなされた。

各議題について多くの質問が上がり、盛会のうちに閉会となった。



第9回 役員・事務職員ワークショップ開催される

平成30年7月7日(土)・8日(日)の2日間、第9回役員・事務職員ワークショップが本会事務局で開催された。中澤会長を中心に、佐野副会長、熊代副会長、小田理事がファシリテーターとなり、6~7人の理事および事務職員で構成された3つのグループに分かれて、より良い事業を実践するために、それぞれの方策について話し合われた。テーマは(1)診療放射線技師法改正実現に向けた方策(2)診療参加型臨床実習の普及に向けた方策(3)経費5%削減に向けた方策—である。これらのテーマについて、ブレインストーミングとKJ法により緊急度と重要度を検討した。

(1)診療放射線技師法改正実現に向けた方策については、現状の課題を分析した上での方策と結果がまとめられた。現行法と業務の乖離^{かいり}を周知して危機感を持ってもらうこと、他団体や有識者などのコンセンサスを得ること、そして国民・行政への働き掛けにより理解と協力を得ることが提案された。そのためにはキャンペーンやイベント活動、地方技師会単位の周知活動、積極的な協働活動や発信、公開事業やマスメディアの活用による専門性のアピールに取り組むことが必要であるとされた。

(2)診療参加型臨床実習の普及に向けた方策については、

養成校と臨床実習施設の双方にメリットがあるような方策が必要であることが強調された。臨床実習施設の充実として、参加型臨床実習施設モデル事業の展開、実習指導書・評価表などの作成が挙げられた。また臨床実習指導者の充実として、大学から実習指導者へ臨床教授などの称号授与、そしてJART臨床実習施設認定や実習指導者認定のブランディングを行うことが重要であるとされた。臨床実習施設のメリットとして、就職採用とのマッチング、実習費の増額、病院長などへの認定プレートの授与が提案された。

(3)経費5%削減に向けた方策については、個々の意識改革を大前提として、固定費の見直し、電子化の利用、会議関連費用の見直し、事業の見直しが提案された。特に会議関連では、Web会議の推進や会議資料の電子化が即時に実行可能な方策であり、経費削減においては優先度の十分な検討が必要であることが強調された。また入会促進による会費収入の伸びなど、具体的な案が掲げられた。

いずれも活発な質疑応答が行われ、中澤会長の総評の後、閉幕した。今後の日本診療放射線技師会におけるそれぞれの事業の軸となり得る方策が多数見られた。



医療被ばく低減施設認定の相談窓口について

第34回 日本診療放射線技師学術大会の開催期間中、総合受付内に医療被ばく低減施設認定の相談窓口を設置しております。

■ 相談対応日時：9月22日(土)午後～9月23日(日・祝)午前中

INFORMATION

第15回 読影セミナー 開催される

平成30年7月1日(日)午前10時より、昭和大学病院 入院棟地下1階 臨床講堂において、第15回読影セミナーが開催された。参加者は関東を中心に全国各地から80人を超え、本セミナーの関心度の高さがうかがえた。

本年度の読影セミナーは「脳卒中・大血管疾患の画像診断および撮影と読影の補助、画像再構成」をテーマとし、初の試みである実機を持ち込んでの講義が行われた。

講義内容は、昭和大学江東豊洲病院脳神経内科 神谷先生による「脳卒中患者の画像診断」、昭和大学病院放射線技術部 橋高先生による「脳卒中患者の撮影と画像再構成」、昭和大学病院心臓血管外科 丸田先生による「大動脈疾患の診断

と治療」、そして江戸川病院放射線科 佐藤先生による「大動脈疾患の撮影と画像再構成」では、専門的かつ実践的な内容の講義が行われた。画像診断の基礎や脳卒中・大動脈疾患の特性といった総論から始まり、各論・ケーススタディーへと続き、大変分かりやすい内容で構成された講演であった。実機を使用した講義では、秋田県立脳血管研究センター放射線科診療部 大村先生による「画像再構成の実際(脳卒中)」、聖マリアンナ医科大学病院画像センター 力石先生による「画像再構成の実際(大血管疾患)」と題して、われわれ診療放射線技師が普段携わっているワークステーションの画像作成、基礎と応用、そして特殊な機能なども盛り込まれ、実際に持ち込んだデータを基に、リアルタイムに表示しながらの講義を行っていただいた。今後、開催を予定している大阪・岡山でも本スタイルで行うので、ぜひこの機会に多くの皆さまにご参加いただきたい。

脳卒中・大血管疾患の画像診断および撮影と読影の補助、画像再構成については、われわれが今後ますます取り扱うことになる業務であり、そのような意味においてもとても有意義なセミナーとなった。



第28回 ナイトセミナー 開催される

平成30年6月25日(月)、本会講義室で読影分科会主催の第28回ナイトセミナーが開催された。参加者は40人で、講師には大阪市立大学医学部附属病院 市田隆雄氏を招き「肝臓の診断と治療」をテーマに行われた。主な内容は、肝臓に対する検査手技(超音波検査・CT・MRI)において、各モダリティがどのような位置付けで施行されているかの意義説明、そして適切な鑑別診断がなされた後の治療機序についてであった。超音波検査・腫瘍マーカー検査(スクリーニング)、CTおよびMRI検査(鑑別診断)、造影MRI・造影超音波・血管撮影下CT・肝腫瘍生検(精査目的)について、肝細胞がんの診断アルゴリズム(『科学的根拠に基づく肝臓診療ガイドライン2013年版』)に準拠して説明された。検査目的は被検者によって異なることが述べられ、それに応じた撮影条件(高画質の追求、被ばく低減の追求など)・プロトコル選択・造影タイミングが考慮されるべきで、その適切な



判断が最適な画像構築に寄与するとされた。前述した全てで医師目線と同様に備えることができれば、臨床に素晴らしく役立つ務めができると言及された。そしてこの一連の全てが読影補助に該当するとまとめられた。以上より、放射線診療に貢献できる読影補助に努めることの重要性が示された。

平成30年度 第1回 JART-JIRA定期懇談会 開催される

平成30年7月19日(木)午後4時より、本年度1回目のJIRA(一般社団法人日本画像医療システム工業会)との定期懇談会が本会事務局会議室で行われた。

本会からは中澤会長、佐野副会長、熊代副会長、小田理事、江田理事、上島事務局長の6人が、JIRAからは新延晶雄会長、稲葉 潔業務執行理事、木村 達参与、浜原公幸法規・安全部会長、古川 浩法規・安全部会副会長、鍵谷昭典経済部会長、森 雅嗣事務局長、横田則昭総務部長の8人が出席した。

本会からは、新体制組織役員の紹介、第34回日本診療放射線技師学術大会への協力と出席を依頼した。また小田理事からは、医療放射線の適正管理に関する検討会について、熊代副会長からは、医療機器に係る安全管理のための体制確保

に係る留意点についての報告がなされた。最後に中澤会長が、診療報酬改定を進めるに当たりJIRAと情報を共有しながら進めていきたいと述べた。

JIRAからも新体制の役員が紹介され、続いて最近のJIRAの活動状況、経済部報告、法規・安全部報告がなされた。特に、法規・安全部から報告されたAIの動向や将来性、臨床研究法などの将来的なことについてはJIRAだけでは対応できない。今後はJARTと共に協力しながら進めていきたいとの要望があり、本会も協働していきたいと述べた。

次回は、平成31年1月ごろに本会事務所で開催される予定である。

第6回 モニタ精度管理セミナー 開催される

平成30年6月23日(土)午後1時より、本会講義室で第6回モニタ精度管理セミナーが開催された。

当日は、全国から37人に上る診療放射線技師が参加し、モニタの精度管理に必要な知識を学ぶとともに、実機を用いたデモンストレーションを体験した。

モニタ精度管理セミナーは、本会と一般社団法人日本画像医療システム工業会(以下、JIRA)が共催し、モニタの品質管理のデモンストレーション、モニタの品質管理に関するガイドライン(JESRA X-0093*B⁻²⁰¹⁷)の紹介、モニタ実機を用いたヒヤリハット体験など、「医用モニタの精度管理が体験できる内容」が特徴である。

当日は、本会 児玉理事による開講式の後、本会 松田理事による「医用画像表示用モニタの特徴と品質管理の実態」の講演があり、続いてJIRAのモニタ診断システム委員会参加企業の協力の下「モニタ実機によるヒヤリハット体験」が行われた。

休憩を挟んで、JIRAの赤木委員から「モニタの品質管理

に関するガイドライン(JESRA X-0093*B⁻²⁰¹⁷)」の詳述説明が行われた後、獨協医科大学埼玉医療センターで、実際に院内のモニタ精度管理を担当されている診療放射線技師 諏訪和明氏から「病院での品質管理について」と題し、臨床現場でモニタの精度管理に携わる担当者からの「生の声」をご報告いただいた。

最後に「モニタの品質管理のデモンストレーション」として、JIRA委員のリードにより、ガイドラインに沿った品質管理手順の実際を体験し、質疑応答の後、閉講式が行われた。

品質管理のデモンストレーションでは、参加者が実機を用いてモニタ管理を体験し、大きな盛り上がりの中、終了時刻いっぱいまで熱心な質疑応答が続いた。

終了時にご記入いただいた参加者アンケートからも「実機体験による管理手法習得の有効性」を回答する声が多く、大盛況のうちにセミナーは終了した(参加者の皆さま、お疲れさまでした)。

平成30年度 関東甲信越診療放射線技師 学術大会(新潟大会)報告記

公益社団法人日本診療放射線技師会
北関東地域理事 小黒 清

平成30年6月30日(土)・7月1日(日)の2日間、平成30年度関東甲信越診療放射線技師学術大会(主催:日本診療放射線技師会・北関東地域/南関東地域)が、朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンターにおいて「多様な視点でつなぐ放射線診療の未来～トキは来たり、今こそ新潟からはばたこう～」をメインテーマに、盛大に開催されました(2日間参加総計人数484人)。

本学術大会は、一般演題69題、INTERNATIONAL SESSION5題、その他7部門のテクニカルセミナー、女性活躍推進セッション、ランチョンセミナー、機器展示、読影コーナーと多彩で幅広い企画でした。

本会 中澤靖夫会長による講演「診療放射線技師会の最新動向」では、われわれ診療放射線技師を取り巻くさまざまな問題について、日本診療放射線技師会がどのように対応しているかを知ることができました。特別講演(市民公開講座)では「いのちの落語講演～生きる希望と勇気を笑顔で伝える～」と題して、いのちの落語家・作家、樋口 強氏による講演と落語を市民の皆さんと笑いながら楽しむことができました。シンポジウムでは「頭頸部をうまく撮ろう!～モダリティの限界を知り未来への挑戦～」と題して、各モダリティの問題点を認識した上での今後の展望について討論し、大変興味深く有意義な2日間でした。

閉会式の優秀演題表彰では「循環器血管撮影検査における水晶体レベルでのX線入射方向による術者位置の散



乱線量分布の検討」(新潟市民病院 小野塚直樹氏)、「当院の医用モニタ品質管理における運用管理規程の策定」(亀田総合病院 秋田裕介氏)が表彰されました。

なお本学術大会において、東京都診療放射線技師会と学術交流協定を締結しているソウル特別市放射線士会(SRTA)からの7人の視察団を、新潟県診療放射線技師会の組織委員会のご配慮により温かく受け入れていただいたことに感謝致します。

今回の学術大会は、関東地域1都9県の(診療)放射線技師会が平成21年から持ち回りで開催するようになり10年目でありました。来年の東京大会から2巡目になりますので、今後もさらなる発展および多数の演題申し込みと参加者で盛り上げていただきたいと期待しております。

最後になりますが、本学術大会の開催にご尽力いただきました一般社団法人新潟県診療放射線技師会 笠原敏文大会長、橋本 薫実行委員長ならびに実行委員の皆さま、参加していただいた南北関東地域各技師会会員の皆さまに心より感謝とお礼を申し上げます。



シンポジストの方々



樋口強氏の落語講演



笠原敏文大会長



情報交換会の様子

本会の動き

診療放射線技師国家試験問題評価委員会より

今回は、診療放射線技師国家試験問題評価委員会について会員の皆さまにご説明したい。本会のさまざまな事業展開の中で、その目的に応じて委員会・班・分科会が数多く設置されている。私が担当する本委員会もその中の一つであり、毎年実施される診療放射線技師国家試験の出題内容および解答の考査を目的とするものである。本委員会は、各分野でご活躍されている知識と経験豊富な委員の皆さまから最大限の協力を得て、国家試験が実施された後、速やかに評価を行っている。同時に国からは、合否が公示される前に、分析結果を厚生労働省医政局医事課試験免許室に本会の答申書として提出することが求められている。

今年2月22日に実施された、第70回診療放射線技師国家試験の出題内容および解答の考査を目的に、2月25日に診療放射線技師国家試験問題評価委員会を本会本部で開催した。そして診療放射線技師法第17条で定める診療放射線技師として必要な知識および技能を評価する今回の国家試験の内容を検討した。またその分析結果は3月7日に、厚生労働省医政局医事課試験免許室に本会の答申書として提出されている。

第70回となる本年度の受験者数は2,971人であり、合格者数は2,237人、合格率は75.3%となった(【過去の合格率】第69回:

85.4%、第68回:78.8%、第67回:73.8%、第66回:76.5%)。

本年度の分析結果が本会の答申書として提出されたことにより、指摘した内容が考慮され影響した一例をご紹介します。本年度の国家試験問題の中で、本委員会が複数回答を指摘した6設問中3設問が正式に採点除外等問題として扱われたことに、関係各位の配慮とご理解に大いに感謝を申し上げたい。

医療の発展とともに、技術の進歩や新たな分野が適切に国家試験問題に反映されており、医療現場で必要とされている知識や技術が加味された問題が出題されているかを分析・評価することは職能団体の使命であり、責任は重大であると委員一同が認識をして今後も取り組んでいく所存である。

最後に、本年度も2,237人の診療放射線技師が世の中に誕生した。今後の皆さまのご活躍を期待するとともに、診療放射線技師唯一の職能団体である日本診療放射線技師会への入会を切に望むものである。(文責:佐野幹夫)

診療放射線技師国家試験問題評価委員会(委員構成)

○佐野 幹夫 井戸 靖司 丸山 智之 木暮 陽介 腰塚 慎二 加藤 京一 高嶋 優子 成田 浩人 岡部 圭吾 西澤 徹 丹羽 政美 以上、11人

ホスピタリティ



2018年7月3日(火)の中日新聞朝刊に「脳の画像診断AI勝利」という見出しの記事が掲載された。昨今、画像診断での見落としが問題となっているが、この記事は、北京で脳神経外科の専門医師らとAIによる画像診断システムが、脳のMRI画像診断コンテストで対戦し、AIが勝利したというものであった。脳の画像データ15問を医師15人とAI「天医智」が30分かけて診断、医師チームの正解率が6割強だったのに対し、天医智は15分で回答を終えた上、正解率が8割を超えたという。対戦した医師は「診断スピードはかなわないと思ったが、正解率でも負けるとは思わなかった」と悔しがったと記されている。

今後、医療の中にAIが入ってくることに疑いの余地はなく、それによりさまざまな変化が起ってくるだろう。われわれ診療放射線技師も危機感を持って、時代の変化に対応していくことが重要である。

一方、不変のものとして、私は「ホスピタリティ」を大事にしたいと考えている。医療はサービス業だといわれることがあるが、「サービス」とは人のために尽くすこと、奉仕することであり、そこには主従関係がある。これに対して「ホスピタリテ

ィ」は、対等な人間関係の中で生まれる思いやりの心である。医療は正確な診断をして病気を治すことが業であり、そこに「ホスピタリティ」という心が加わることによって「信頼」が生まれ、医療の質を上げると考える。

われわれの仕事は凄まじい勢いで進歩しており、最新の装置で高度な技術をもって、質の高い医療を提供できる環境が整ってきている。しかし、患者さんの理解や協力が得られなければ、いくら最新の高度な装置で検査や治療を行っても、多くの画像情報や高い治療成績を得ることは難しい。いかに患者さんの不安や緊張を取り除き、リラックスして検査や治療を受けてもらえるか、協力していただけるかが大切であり、われわれ診療放射線技師は高度な専門技術に加えて、患者さんに安心を与える思いやりの心「ホスピタリティ」を持って対応することが必要である。患者さんのとの間に良好な信頼関係を築くことは、医療トラブルの防止にもつながるものである。

AIに心を宿す日が来るかどうかは分からないが、われわれもAIと共存する道を考えていかなければならない。

(文責:中村 勝)



第34回 日本診療放射線技師学術大会

The 34th Japan Conference of Radiological Technologists (JCRT)

第6回 アジア放射線治療シンポジウム

The 6th Asia Radiotherapy Symposium (ARTS)

国民と共にチーム医療を推進しよう

Let's promote team medical care with the nation

—時代の潮流を見極める—

The Direction of Tomorrow

会期
Date

平成30年
9月21日(金)~23日(日)

September 21st (Fri) -23rd (Sun), 2018

会場
Venue

海峡メッセ下関
下関市生涯学習プラザ

KAIKYO MESSE SHIMONOSEKI /
Shimonoseki City Lifelong Learning Plaza

会長
President

中澤 靖夫

(公益社団法人 日本診療放射線技師会 会長)

Yasuo Nakazawa (The Japan Association of Radiological Technologists)

大会長
Chairman

山内 秀一

(一般社団法人 山口県診療放射線技師会 会長)

Shuichi Yamauchi (The Yamaguchi Association of Radiological Technologists)

URL:<http://www.convention-w.jp/jcrt34>

主催: 公益社団法人 日本診療放射線技師会

Host: The Japan Association of Radiological Technologists

共催: 一般社団法人 山口県診療放射線技師会

Cosponsor: The Yamaguchi Association of Radiological Technologists

後援: 厚生労働省(予定)

Support: Ministry of Health, Labour and Welfare

山口県(予定)

Yamaguchi Prefecture

下関市(予定)

Shimonoseki City

運営事務局 株式会社日本旅行 中四国コンベンショングループ

Congress Secretariat

〒700-0023 岡山県岡山市北区駅前町2-1-7 JR西日本岡山支社ビル1階 TEL:086-259-5578 FAX:086-250-7682 E-mail:jcrt34@wjcs.jp

Nippon Travel Agency Co.Ltd. Chu-shikoku Convention Group 2-1-7, Ekimae-cho, Kita-ku, Okayama, 700-0023, JAPAN Phone: +81-86-259-5578 Fax: +81-86-250-7682 E-mail: jcrt34@wjcs.jp

9月・10月の講習会などスケジュールのご案内

INFORMATION

- Ai認定講習会： 東京 10月13日(土)～14日(日)
- 超音波実技講習会「血管編(頸動脈・下肢静脈領域)」： 東京 10月21日(日)
- 画像等手術支援認定講習会： 新潟 10月28日(日)

ホームページ閲覧のお願い

INFORMATION

「業務拡大に伴う統一講習会」および「診療放射線技師基礎技術講習」の開催日程につきましては、ホームページで随時更新しておりますので、そちらをご参照ください。

- 「業務拡大に伴う統一講習会」開催日程：
www.jart.jp/activity/lifelong_study/schedule.html
- 「診療放射線技師基礎技術講習」開催日程：
www.jart.jp/activity/lifelong_study/ib0rgt0000004api.html



業務拡大に伴う
統一講習会



診療放射線技師
基礎技術講習

本会への入会手続きについて(お知らせ)

INFORMATION

ホームページからでも、書類でも・・・本会への入会は、次のいずれかの方法によりお手続きいただけます。

- 1 本会ホームページ (<http://www.jart.jp>) から「新規入会はこちらから」をクリック
- 2 書類のご提出

書類のご提出によるお手続きの場合は「申込書」を本会事務局までご請求ください。

TEL: 03-5405-3612 E-mail: info@jart.or.jp

ぜひ周りの非会員の方に、お知らせください。



JART求人広告掲載について

INFORMATION

会誌に掲載する診療放射線技師募集の求人広告を随時受け付けております。申込書ならびに募集要項につきましては、本会ホームページ(各種様式→その他)よりダウンロードしてご確認ください。

なお、掲載月の前月5日が掲載申し込みの締め切りとなっております。

事務所
案内

執務時間：月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。

ただし、土曜、日曜、休日、祝日、創立記念日(7月13日)および年末年始(12月29日～1月3日)は執務致しません。